



# 研修を活かした授業実践例

【高等学校編】

教師および生徒の原文を生かして掲載しておりますので、  
一部表現のばらつきがありますがご了承ください。

高等学校編



# 国際協力 — 私たちにできること —

香川県立善通寺第一高等学校

担当教科：英語

藤田 節子

◆実践教科：英語

◆時間数：4時間

◆対象学年：2年

◆対象人数：42名

## カリキュラム

### ◆実践の目的

高校の英語教材には、開発途上国や国際協力・支援活動について扱ったものが多くある。生徒は2年次1学期に英語Ⅱの“Doctors to the World”で、アフリカのシエラレオナで活躍した「国境なき医師団」の日本人医師、山本敏晴さんの体験記を読んで、シエラレオナの現状や「国境なき医師団」の存在や活動について知った。

ネパールで私が実際に見て体験して感じたことを生徒に伝え共に学び、開発途上国や国際協力についてさらに発展させた学習をすることで、知ることだけにとどまらず、考え、行動できる積極的な態度を養うことを目的にしたい。

具体的には、

1. ネパールについて知り、抱える課題に気付くとともに「ちがい」を理解する。
2. ネパールの人々や同世代の学生の生きる姿から自分をそして世界の中の日本について考える。
3. 国際協力に対して積極的に考える態度を持ち、自分たちに何ができるかを考え、行動を起こすきっかけにする。
4. 英語ライティングの授業で、英語を使いながら「参加型学習」形態で生徒が主体的に積極的に学び、英語も国際協力に必要なものの一つであることに気付く。

### ココがすばらしい!

- ・ネパールの女子学生の直筆の英文を教材として使うことで、英語がコミュニケーションの道具となることを生徒に実感させた。
- ・先生自身も生徒と一緒に国際理解について考えていこうとしている姿勢がよかった。

## 授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	ナマステ! ネパール! —ネパールを知ろう— ネパールクイズで楽しく英語活動をし、ネパールに関心を持ち「ちがい」や課題に気付く	①ペアを作り“ナマステ”と互いにあいさつを交わす ②ペアで話し合いながら英語版ネパールクイズを解く ③一問ずつペアにあてながら答えをあわせる パワーポイントを使い写真などを見せ、実物や体験談もふまえて解説する ④「ちがい」や「問題点」、「共通点」などをワークシートに記入する	・授業は英語で行う ・英文のクイズのワークシート (ワークシート1) 【パワーポイント】 ・写真
2	フォトランゲージに挑戦! 写真から情報やメッセージを読み取るとともに写真をつなげてストーリーを考えることで想像力や表現力を養う 人によってまた班によって写真の解釈が異なることを理解しあう	①6カ国の挨拶の言葉カードでグループ編成(6班作る) ・声を出しながら仲間を探し7人のグループを作り、各班がその語を発表し皆で何語かをあてる ②フォトランゲージ(グループワーク) ・3枚1組の2パターンの写真を用意し各班にどちらかの組の3枚の写真を配る ・3枚の写真からわかることや感じることを付箋に書いて写真に貼る ・それぞれの写真にタイトルをつける ・3枚の写真を使って英語で物語を作り書く ・グループごとに発表 グループによる写真の意味づけ・解釈の違いを確認 ・本時を振り返り感想を書く	・6カ国の「こんにちは」を意味する言葉カード ・3枚1組で2種類の写真6班分18枚 ・POST-IT ・ワークシート2 ・文房具類

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
3	<b>ネパールの女子奨学生 ※と自分</b> 同世代の奨学生の生き方から自分を振り返り、自分の生き方や国際協力の重要性について考える ※ラブ・グリーンネパールの支援による	①ネパールの奨学生の生き方から自らを振り返ろう ・NGOシャプラニールが支援する子どもの報告のプリントを読む ・ネパール子女への支援活動をしている“Love Green Nepal”の活動や女子奨学生についてプリントやパワーポイントを通して知る ・奨学生にインタビューした項目の表に自分の場合について記入する ・奨学生の回答を班で話し合い想像する ・想像した回答を各班で発表し、パワーポイントで答えや直筆の回答を見る ・奨学生と自分の回答を比較する ・感じたこと考えたこと疑問などをワークシートに書き出しグループで話し合う ②次時への宿題 どのような国際協力や支援活動があるか具体的に調べる	<b>【プリント】</b> ・シャプラニールの活動と支援されている子ども2人のレポート（プリント資料） ・Love Green Nepalの説明（ワークシート3表面） <b>【パワーポイント】</b> ・奨学生や学校建築現場の写真 ・インタビュー項目のワークシート（ワークシート3裏面） ・奨学生のインタビューの直筆回答
4	<b>国際協力ー私たちにできること</b> 国際協力への行動を起こすきっかけは身近なところにあることを理解する	<b>グループ活動</b> ①調べたことを、グループ内で話し合う ②班毎に発表する ③ネパールで活躍するJICAボランティアについてパワーポイントで説明を受け知る ④ユニセフについて知る ⑤国際協力に関して自分に何ができるかを考えワークシートに書く	<b>【パワーポイント】</b> ・JICAボランティアの写真 <b>【プリント】</b> ・JICAボランティアの活動報告書(資料) ・ユニセフについてのQ&Aプリント ・ワークシート4

## 授業の詳細

# 1 時限目 | ネパールを知ろうーネパールクイズで「ネパール博士」になろう交流

ネパールクイズに挑戦！（英語で授業を行う）

- ペアを作る。ネパールのあいさつ“ナマステ”を説明し、ペア同士で“ナマステ”とあいさつを交わす。
- 「ネパールクイズ」のワークシートを配布し、ペアで話し合いながら答えを選択する。
- 指名されたペアは話し合った結果を発表する。
- 一問ずつパワーポイントで資料や写真、また実物を見せて、体験談も織り交ぜながら解答・解説をする。
- 相違点や疑問に思ったこと、感じたことなどをワークシートに各自が書く。

## 生徒の反応

- ・年齢の違う子どもと一緒に学んでいる。みんな生き生きしている。子どもの笑顔が素敵。
- ・物がなくことによって工夫し、学ぶ姿勢が日本と違うなど思った。物がなくからこそ生まれてくるものがたくさんあるのだと思う。
- ・カトマンドゥだけで香川県と同じ人口とは、人口密度が高いなあ。
- ・“Yes”の時に首を横に振るのが一番びっくりした。
- ・お米を常食としている！中国でホームステイした時、チャーハン以外ではお米を食べる習慣があまりなかった。日本に近いのになぜだろうと思った。お米を常食にするというネパールに親近感がわく。
- ・排気ガスの環境問題と学校に行けない子どもたちがいる教育問題が一番気がかり。
- ・気付いた点は5人に1人が学校に行けないということ。日本では勉学を嫌がる若者が多くいる中、勉強したいと志願するネパールの子どもの教育を受けるようになれば、将来的に国がもっと発展していくと思う。
- ・「モモ」や「ツックパ」や「チャウメン」は、ぎょうざ、うどん、焼きそばという感じで日本人と好きな食べ物と同じだなと思った。
- ・仏陀の生誕地だと思うが、なぜ80%の国民がヒンズー教なのか知りたい。
- ・ネパールなどの貧しい国で井戸を掘るなど貢献している日本人のことを知りたい。
- ・信号もなく交通渋滞もひどいが事故の発生率はどのくらいなのか。

## 〈所感〉

英語ライティングの授業での実施を考え、英語の単語や文法とリンクさせて英語の問題でネパールクイズを作成した。

内容は、地理、文化、宗教、社会、教育、食などできるだけ多面的な分野で、かつ次の授業につながるようなものにした。難しい問題にも、ペア活動で協力しながら楽しく取り組めた。

写真を使って解答・解説をする際に、パワーポイントはとても効果的だった。写真が大画面で全員に見えるので、迫力もあり分かりやすく集中できた。

全員が積極的に興味を持って取組み、12問の内容から、違いや問題点等を見出し考えることができた。

このクイズだけを3年生の3クラスでも行ったが、クイズで導入することは効果があると思った。

# 2時限目 | フォトランゲージに挑戦！

参加型学習で生徒が主体的に取り組み、互いの意見や考えを出し合えるようにグループを作る。

## 1. 6カ国のあいさつで仲間づくり

- ①ナマステ（ネパール）、②チョモリアプスーア（シエラレオナ）
- ③ゲーテン・ターク（ドイツ）、④ニーハオ（中国）、⑤サワディ（タイ）
- ⑥アンニョン・ハシムニカ（韓国）

- (1) 「こんにちは」を6ヶ国語で表示し、カタカナで表記したカードを配り、各自が声を出しながら同じ言葉の仲間をさがし、グループを編成する。
- (2) グループ内でその言葉で挨拶し顔合わせをする。
- (3) クラスのみんなにその言葉を聞かせる。
- (4) どこの国の言葉かを当てる：本校は中国・西安、ドイツ・ブレーメン州と交流している。

## 2. フォトランゲージ

- (1) 3枚の写真を一組に2種類用意し、6班にどちらかの種類の1組を渡す。
- (2) それぞれの写真から分かることをPOST-ITに書いて写真に貼る。
- (3) 班で話し合いながら写真にタイトルをつける。
- (4) 3枚の写真を使い、話をできるだけ英文で作る。
- (5) グループごとに発表する。写真と書いた話を黒板に貼り発表。
- (6) グループにより写真の解釈にどんな違いがあったかを確認する。
- (7) 本時を振り返り、感じ、考えたことをワークシートに書く。

フォトランゲージに使用した写真



## 生徒の反応

- ・班毎にいろいろな見方や発見があって視野の広がりや想像力も豊かになった。自分の班では気付かないネパールの魅力や見方がわかってよかった。
- ・他の班の発表は内容がとてもユニークでおもしろかった。ネパールの子供たちは勉強している時、とてもいきいきとしていると思った。
- ・同じ3枚の写真でも全然違う点に注目していてすごいと思った。あまりつながりのない写真でよくここまで物語を作れるものだなと感心した。
- ・写真の順序も班によって違い、会話形式でラブストーリーを作っていたのはびっくりした。
- ・学校建築の写真だったのに、地震で家が倒壊とかさまざまなタイトルやストーリーが発想できるのはおもしろかった。

## 〈所感〉

フォトランゲージに使う写真を決めるのに相当な時間がかかった。見れば見るほど、写真を撮ったときの自分の思いが思い出されたり、その写真の意味を振り返り理解したためだった。

想像もつかないほどに生徒の発想力、想像力はすばらしく、1枚の写真からいろいろなことを見出し考える事ができていた。3枚の写真をつなげて物語を作ることはかなり難しいと予想したが、生徒は楽しく互いに意見を出し合い、共有する中で話し合いながら、約20分で話を作り上げた。

物語は、戯曲風のもの、恋愛ドラマ、チャット風に日常を説明したものなど、すべての班がさまざまな視点でテーマを決め、堅いものからコメディまでユニークな話を作った生徒の発想力に感動した。

答えのない参加型学習を通して、生徒がネパールの人々の生きる姿や生活場面をさらに深く考え、問題意識を持てたことは成果だった。

生徒の中に、「その写真の中の子供たちの写真を撮ったときの本当の気持ちや、背景や風景が実際は何であるかがすごく気になった」と感想に書いていたが、これこそが、次の授業へとつながる強い興味や問題意識であると思った。

## 3時限目 | ネパールの女子奨学生の生き方から自分を振り返る

### 1. ネパールの奨学生から自らを振り返る

- (1) シャプラニール(NGO)が支援している子どものレポートを配布し、学校に行けない子どもの置かれている状況や支援の成果を知る。
- (2) “Love Green Nepal”(NGO)の活動や女子奨学生をプリントやパワーポイントを使い説明する。
- (3) 女子奨学生にインタビューした項目を表にしたワークシートを各自に配布し、まずは自分の場合について回答する。
- (4) 女子奨学生の回答を班で話し合い考える。
- (5) 想像した回答を各班で発表する。
- (6) パワーポイントで答えをあわせて、自分と比較する。
- (7) 感じたこと、考えたことなどをワークシートに書く。

### 2. 次時への宿題

子どもや教育を支援する国際協力について説明し、身近なところにどのような支援活動があるかを調べてくる。

## 生徒の反応

- ・家事や水くみなどの仕事をしながら3時間も英語を勉強して、他人の幸せを願っているネパールの人々は心が広くてやさしくて、私は憧れた。「Love Green Nepal」に参加したいと思った。
- ・自分の夢に向かって一生懸命努力していることに感心した。私も同じ年なのだから、彼女のように努力しなければいけないと思った。彼女をすごく尊敬する。
- ・「あなたにとって大切なもの」を、「貧しい人を助けること」と書いていて、驚いたと同時になんかジーンときた。同じ地球にいるのに、ここまで生活や考え方が違うのだなと思った。

- ・自分が当たり前を受けている教育は、他の国の人からするととても大切なものと分かった。親が金を出してくれることが当たり前だと思うのも間違っていると思った。少しでも他人や家族の役に立つ人間になりたいと思った。
- ・私も先生になりたいけど彼女のようなすばらしい理由はありませんでした。私も先生になることの理由を深く考えていきたいと思った。
- ・「あなたにとって大切なもの」に「お金」という人が一人もいなくてびっくりした。

## 〈所感〉

授業の最初に、「シャプラニール」(NGO)の話をして導入していたとき、冷めがちだった男子生徒が、授業の最後に「感動した」と言った。また、何人かの生徒が涙ぐんでいたのが印象的だった。

生徒は、ネパールの女子奨学生のような姿を通して、ネパールの教育や女子の立場を具体的に知り考える事ができた。また、自分と比較することで自分の生活を振り返り、自分の生き方や考え方を深く考えることができた。

「Love Green Nepal」(NGO)の支援活動に日本人が関わり、支援の成果をあげていることに感動し、自分も関わりたいと思う生徒がいた。

私自身の強い関心から行った彼女達への短い時間での質問が、このような形で生徒への授業で使えたこと、そして生徒がここまで思いを深めることができたことに、感動した。

直筆の彼女たちの回答を、パワーポイントで写し、実物を見せたのがとても効果的だった。

# 4 時限目 国際協力ー私たちにできること

## グループ(班)活動

自分たちが調べてきたことをグループ内で発表しあう。

1. ネパールで活躍しているJICAボランティアを具体的にパワーポイントで写真を見て紹介する。
2. 本校生徒会のボランティア活動：ユニセフ基金への募金を身近な事例に、ユニセフについてプリントで学習する。
3. 自分がどんな国際協力をしたか、また、何ができそうかを書く。

## 生徒の反応

ー自分がしたい、できること

- ・文化祭でバザーの収益金を生徒会がユニセフに募金しているが、ユニセフが何かをきちんと知った。
- ・英語やその他の外国語を習得して、将来、ボランティアとして、もっとより良い環境を提供するために勉強して現地に行きたい。
- ・募金活動に参加し、古着や文房具を送る活動をしたい。
- ・英語でコミュニケーションを取れるようにもっと英語を勉強する。
- ・世界の難民や貧しい国について調べる。
- ・交流会に参加してお互いの国について知る。

## 〈所感〉

生徒は、国際支援や国際協力が遠い他人ごとではなく、自分の身近なところから取り組めることを実感したようだ。多くの生徒が、今学んでいる英語をもっと勉強したいと書いていた。

先週木曜日に1時間、今週3日続けてのネパール授業を通して、生徒がネパールだけでなく世界の他の途上国、そして先進国日本についても自分を含め考えた上で、自分がしたい、できることを考える姿勢ができたように思う。

ネパールの抱える問題点に対して、生徒が「気付き」から「もっと知りたい、わかりたい」「考える」「したい、できる」に時間を追うごとに深まっていったことに大きな成長を感じた。

## 成果と課題（全体を通して）

英語ライティングの授業で実施したいと考えていたので、ネパールをテーマにしたオリジナルな英語教材を作って、英語を使って授業を展開しようと決めていた。しかし、内容・方法・実施時期を決めるのにかなり苦勞した。JICA国内研修において、講師の高見先生から学習した「参加型学習」を取り入れ、生徒が主体的に取り組み、能動的な学習ができるよう工夫した。

たとえば、ペアやグループ学習の隊形、6カ国の「こんにちは」を書いたカードでの班分け、グループでフォトランゲージ活動など、決して一つの答えや正解はないものに対して、各自が意見や考えを持ち、それを仲間と共有し、話し合い、発表することを活動の方法にした。

生徒同士が互いの意見を尊重しながらペアや班で意見をまとめていく中で、友達の知らない一面を発見したり、違いを理解し合えることを実践できたことは大きな成果だった。

1時間目のネパールについての知識が、2時間目、3時間目の授業で具体的に内容が深まり、つながっていくのを生徒が分かり、「ああ、前の時間のあの写真はこういうことだったのか」とわかったようだ。

答えのないものに取り組む中で、授業を振り返りながら、内容を深めていくことができた。

また、最後に、今学習している英語を勉強することも国際協力への行動の第一歩であることを実感できた生徒が多くいたことをうれしく思った。

世界的な問題に対して行動を起こすきっかけは、自分の身近にある問題に取り組むことから始められることを皆で共有できたように思う。

今後は、これをきっかけにしてさらに学習を継続することが課題である。

4時間すべて研究授業として実施し、パワーポイントや他の教育機器、また教室以外の場所も使うなどで本校の先生方に理解と協力していただけたおかげで、より良い授業にできたことを感謝している。

## 参考資料

### 【書籍】

- ・国際協力機構編「みんなの国際協力」
- ・国際協力機構編「集まれ！地球の教室」
- ・地球の歩き方編集室編（2009）「地球の歩き方ガイドブックD29ネパール2009年-2010年版」ダイヤモンド社
- ・日本ネパール協会編（2000）「ネパールを知るための60章」明石書店

### 【インターネット】

- ・「外務省」<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/nepal/index.html>
- ・「国際協力機構」<http://www.jica.go.jp/>
- ・「シャプラニール」<http://www.shaplaneer.org/>
- ・「Love Green Nepal」<http://www.lovegreennepal.org/>

## ワークシート1 (1限目)

### 「ネパールクイズに答えてネパール博士になろう！」

Choose the correct answer from ( ).

1. Nepal is between China and ( Thailand / India ).
2. Kathmandu, the capital of Nepal lies ( higher / lower ) than Mt. 大蔵 (OOASA-YAMA).
3. The population of Kathmandu is as large as that of ( Kagawa / Kyoto ).
4. People in Nepal are religious, 80 % of them believe in ( Buddhism / Hinduism ).
5. They don't eat ( beef / pork / chicken ).
6. They live on ( rice / bread ). Dharbari is a typical popular dish.
7. When they eat dharbari, they usually use ( chopsticks / spoon / hand ).
8. When they say "Yes", they ( shake head / nod ).
9. One out of ( five / ten ) cannot go to school.
10. Most children go to school by ( train / bus ).
11. Children use their local language and ( French / English ).
12. Japanese national income a year is about ( one hundred fifty / fifteen ) times higher than that of a person in Nepal.

1. 日本と「ちがうなあ」と思ったこと
2. 日本と「同じだなあ」と思ったこと
3. ネパールについて気付いた「問題点」
4. もっと知りたいこと

## ワークシート2 (2限目)

### 「フォトランゲージに挑戦！」

1. 3枚の写真は、いずれもネパールの写真です。  
それぞれの写真から分かることを書いてみよう。  
POST-ITに書いて貼り付けよう。
2. 写真にタイトルをつけてみよう。
3. 3枚の写真を使って、物語をつくってみよう。

### ネパール奨学金支援事業とは？

ネパールでは、女性の社会的地位が低く「教育は男だけでよい」という風潮が今なお根強くあり、5年生までの無償教育が終了すると、学業を続けられる女性は経済的に豊かな家庭の人だけになってしまう。学校に行けないネパールの子女（6～12年生）に学費を支援する制度。月々1000円で1ヶ月の学費がほぼ賄える。

### 活動内容

対 象	経済的に不利な家庭に育ち、まじめで品行方正なネパールの女子 6～12年生
奨学金の用途	(1) 学費その他学校に納入する費用 (2) 制服購入費、 (3) 文房具、学用品購入費 (4) 補習授業費
奨学生の義務	(1) 試験結果の提出 (2) 将来の目標を定めて努力すること (3) 社会奉仕活動・環境保護活動への参加 (4) 奨学金使途明細の提出（以上Love Green Nepal本部へ）
奨学生の選考	各学校から応募のあった生徒を、選考委員会（Love Green Nepal代表、地域の教育委員、保護者代表）にて面接、学校訪問を行なった上で決定

### Love Green Nepal

#### 1. 奨学金プログラム

- ①17年前、植林活動から始め、その後学校建築も行うようになった。
- ②パスカル盆地には6つの郡があり、この地方の女性の識字率が低かった。それを高めるため当初は10人から始め、今では160人の奨学生がおり、この郡には20の学校がある。

#### 成果

- ①前向きな考え方、自信を持てるようになった。毎週土曜日に学習成果発表を実施している。
  - ②多くは先生になりたいため、52人にコンピュータの基礎を教え、生徒たちは先生になる訓練として学校を手伝い、自分の住む村に貢献している。
- #### 2. 「女性エンパワーメント」（地域の女性のために既婚女性が作った組合）見学
- ①沖縄のNGOの支援でガルビヤ開発組合 203名  
女性の収入(きゅうりやトマト、キャベツ等の野菜を近くの町に売りに行く)や保険について勉強。

## ワークシート3 裏面

### Dhodariさんと比べてみよう

#### 1. あなたの場について、下の表を完成させなさい

次に、Dhodariさんの回答を想像して考えてみよう

	Dhodari	You
起床時間		
通学時間と方法		
好きな科目		
英語学習時間【家での】		
家事の役割		
将来の夢、その理由		
あなたにとって大切なもの		

#### 2. 思ったこと、考えたことや疑問等を書き出してみよう

## ワークシート4 (4限目)

### 「どのような支援があるか、調べてみましょう」

【例】ユニセフ基金（善一文化祭バザーの収益金）、JICA、国境なき医師団、日本赤十字社

★あなたがしたい、できることを考えてみよう